

ものづくりのまち、日立市は、
暮らしと仕事がちょうどイイ！

暮らしやすさ

程よく都会、程よく田舎。
雄大な自然を感じながら
肩肘張らず、自分のペースで生活ができる！

働きがい

職場はものづくりの最前線。
世界を相手にしながら、新しいこと、やりたいことに没頭できる！

+

=

**Good Life-Work
Balance !!**



Hitachi City Data

人口：182,440人（2017年1月1日現在）
総面積：225.74km²
主産業：製造業、卸売業・小売業
製造品総出荷額：9938億円（2014年度）
東京までのアクセス：JR常磐線特急で
約1時間30分（日立駅ー上野駅）

「ものづくりのまち」として知られる日本有数の産業都市。豊かな自然と最先端の工業技術が調和した、暮らしと仕事に“ちょうどイイ”まち。

ものづくりのまち、日立市には、
最先端の技術と豊かな自然がある。
この環境に身を置けば、
暮らしと仕事、両方を
充実させることができる。

Hitachi City Good Life-Work Balance File



#1 SHINGO YAMASAKI

age.26
UNICAST Inc.
→P.3-4



#2 ERI KURIHARA

age.26
Sanyu Co.,Ltd.
→P.5-6

充実していてもいけないはず。夢を実現するのなら、自分に合った「公私（ONとOFF）のバランスを取りながら毎日過ごすことが大切だと思いませんか？

日立市にはその環境があります。日立市は、自分のペース、自分のバランスで成長できるまち。このまちで就職すれば、都会では難しい「暮らしやすさ」と「働きがい」の両立を実現させることができるはずです。

事実、日立市で働く先輩たちの多くは、そんな「Good Life-Work Balance」を実現しているんです。

茨城県北東部に位置する日立市は、「日立製作所」や「JX金属」などが生まれ育った日本有数の「ものづくりのまち」。市内には高度な基盤技術を持った約380社の企業が集積し、100年以上、世界レベルでの「日本のものづくり」を支え続けています。

また、豊かな自然環境と穏やかな気候に恵まれ、四季折々の美しい自然を満喫できる点も魅力のひとつ。その雄大な自然は、市内外を問わず、多くの人を魅了しています。

そんな自然と産業が調和した日立市は、「暮らしと仕事の両方を充実させられるまち」と言えるかもしれません。社会人として成長していきたいなら、仕事とプライベート、どちらかだけが

OFF

市内を中心にアクティブに動き回る休日。趣味のサイクリングやトレッキング、観光地巡りなどを中心に、日立市の自然を満喫中！



ON

ITベンチャーらしいスタイリッシュなオフィス（シェアハウス併設）で、意識の高い同僚と楽しみながら仕事に打ち込む日々。

Hitachi City Good Life-Work Balance File #1

仕事でも私生活でも

でも成長できるまちなんです」
学生時代から日立市の「リアル」に触れてきた山崎さんにとって、日立市で働くこと、暮らすことのよさは、どのように映っているのでしょうか。
「高度な技術を持つ企業が多いので世界を相手に仕事ができる可能性があるし、自然に囲まれながらのびのびと生活できる。仕事に一生懸命になれる環境と、プライベートを充実させられる環境が両方あって、それを同時に手に入られる、バランスのよいまちだと思います。生活拠点を決める上で、バランスがよく、ストレスのない働き方や暮らし方ができる環境があるというのは、大きな魅力ですね。私自身も、そんな日立市の「ちょうどいい」感じが、とっても好きなんです」
現在の日立市は、「前に進んでいる印象が強い」と山崎さん。

株式会社ユニキャスト



日立市の「創業支援制度」を活用して創業されたITベンチャー。ソフトウェアの開発・設計を中心とした「クライアントワーク事業」などを展開中。
<http://www.unicast.ne.jp>

「まち全体の課題を、一体感を持って解決しようとする流れができあがっているんです。地域の人たちは、若い力を求めている、それに応えようとしている人もたくさんいます。そんな人とまちに囲まれながら、自分も一緒に成長していきたいですね」

山崎真吾さん(26歳・株式会社ユニキャスト勤務)

成長できるまちなんです

ストレスのない働き方や暮らし方ができるのが魅力
茨城県境町出身で、県内の高校から茨城大学へ進学。キャンパスがあったため大学時代から日立市が生活圏だったという山崎さん。就職先を選んだのは、市内のITベンチャーである「ユニキャスト」でした。
「東京でも就職活動を行いましたが見ず知らずの土地で自分のことを理解してもらえないことに寂しさを感じていました。そんなときに、今の会社の代表に声をかけていただいたんです。給与や業務形態をはじめ、環境、そこに住むことのメリット・デメリットなどを総合的に考えた結果、東京や県内の他企業よりも勝っている点が多いと感じて就職を決めました」
山崎さんが「寂しさ」と表現したのは「人との繋がりの希薄さ」

「人の成長に人との繋がりは不可欠ですが、日立市はその点で優れたまちだと思います。例えば、ベンチャー企業として市からの支援を受けて創業したユニキャストがそうであったように、地域やまちの人であったり、企業の人が、若者の夢を『どんどんやれ！』とサポートしてくれる土壌があります。しかも、皆さんがプロフェッショナルで、面見もいい（笑）。そんな環境でチャレンジできるのは、とても幸せなことだと思います。日立市は、仕事でもプライベート



OFF

会社の同僚と立ち上げたテニスサークルの活動で汗を流す休日。終了後は、日立市の美味しい海の幸に舌鼓を打つことも。



Hitachi City Good Life-Work Balance File #2

じっくり自分と向き合う

リ替えをスムーズにしてくれていると思います」
プライベートな時間は、同僚とテニスを楽しんだり、海を見に行ったりと、アクティブに過ごすことが多く、それがよいリフレッシュ方法を見つけることが難しくなりがちですが、日立市は、すぐそこに自然があるので、それが実現しやすいんです。私はよく海を見に行っても考えず「無」になったり、将来のことや仕事のアイデアを練ったりしながら、頭と心を整理しています。そういった時間を大切にすることが、自分の成長につながっていると思います」
「日立の時間」は、栗原さんに「じっくり自分と向き合う時間」を与えてくれたと言います。
「環境やゆったり流れる時間、仕

株式会社三友製作所



医療用分析機器関連製品、電子顕微鏡関連の付属品などを製造。設計開発、機械加工、組立調整、出荷検査までワンストップで行っている。
<http://www.sunyou-ss.co.jp>

事とプライベートのバランス感が、自分のペースに「ちょうどいい」んです。だから毎日が心地よいし、このまちで頑張ろうと思える。この時間、このバランスがあれば、しっかりと自分と向き合うことができるし、それが自分の未来の財産になると思うんです」



栗原依里さん(26歳・株式会社三友製作所勤務)

時間は未来への財産

仕事に打ち込める
恵まれた環境がそう
栗原さんは、東京都出身。大学院を経て、「静かな環境で仕事に打ち込んでみたい」という思いから、三友製作所に就職したと言います。縁もゆかりもない土地へ、単身で移り住むことに不安はなかったのでしょうか。
「これまで都内から出たことがなかったので不安はありましたが、すぐにそんな気持ちはなくなりました。自分が希望していた分析機器を扱っている会社に就職できたと、職場やまちの人たちが温かく私を受け入れてくれましたから」
都市部の人が懸念しがちな地方都市の不便さも感じていないそう。
「車があればどこにでも行けますし、買い物をする場所も多いので不便とは思いませんね。個人的には、地元の東京にすぐ行ける距離

にあるという点が、かなりのプラス要素です。休日にフラッと実家に帰れるのは嬉しいですね」
実際に働き出すと、日立市が気がついたと言います。
「工業集積や多くの専門事業者、研究所がすぐ近くにあって、職人的なプロフェッショナルな人と働けるという環境はかなり魅力的だと思っています。自分が望めば、成長するための勉強はいくらでもできるし、まち自体に余計なものがないので、満足いくまで仕事に打ち込むこともできます。若手に積極的にチャンスが与えられるのも日立市ならではの魅力です」
「環境」という面では、日立市が有する豊かな自然が、公私に好影響を与えているそう。
「のびのびとした環境で働けるという点はもちろん、日立市の自然が、自分自身のON・OFFの切

ON

機械設計の仕事が中心であるためデスクワークが多いものの、社内一貫生産の実現のために専門外の分野にも意欲的に挑戦中。

